

2 教育目標及び子ども像、育成を目指す資質・能力、目指す学校像、目指す教職員像

学校教育目標	人と 学びと 社会と つながる学校
目指す子ども像	つながる (CONNECT) みとめる (ACCEPT) しなやかに (BE RESILIENT)
育成を目指す資質・能力	仲間とともに学び合うことで身につける協同的な生き方 互いに語り合い、認め合うことで育てる挑戦する力 ひとり一人の興味関心を入りに広げる社会への関心
目指す学校像	だれもが心地よい風を感じながら自分らしく生活できる学校 *集団の中で生徒が安心して挑戦や失敗の体験ができる「居場所」を作る。 今日を楽しみに登校し、明日を楽しみに下校できる学校 *学校生活を通して、自分の成長を実感できる「場」を大切にする。 「仲間になれる人」「仲間になれる自分」を見つけられる学校 *互いに語り合い、聞き合うことで、他者も自分も受け入れる経験を大切にする。
目指す教職員像	豊かな感性とやわらかな心で生徒や保護者の思いに寄り添うことができる。 生徒の声に耳を傾け、自由な発想と想像力をもって新しい学びの場を創造できる。 互いに語り合い、聞き合うことで、組織の一員として楽しく働くことができる。

3 教育課程の全体像（学校経営方針）

上記の目標を実現するための学校経営方針について、簡潔に説明してください。
※その際、次の視点を網羅して作成してください。

- ◇児童・保護者・地域・教職員の実態
- ◇カリキュラム・マネジメントの視点による学校経営
- ◇組織マネジメントの視点による学校経営
- ◇人材育成の視点による学校経営

◇洛風中学校の実態
 洛風中学校には、不登校経験のある生徒が集まる「まなびの多様化学校」である。生徒の多くは不登校について、後ろめたいこと、恥ずかしいことと捉えている場合が多い。保護者も同様に、学校に行けなかった期間の「学習」を埋め合わせたいという切実な思いにとらわれ、子供の意向を顧みないケースもある。生徒も保護者も、集団生活の経験が少ないため、人間関係のトラブルを自力で解決することが極めて苦手である。自分自身を集団の中で客観視した経験が乏しいことからくる過剰反応から、生徒間、PTA間にもトラブルが起りがちである。

教職員は幼児～中学生世代の子育て中の教員が多いことから、時間外勤務は他校に比べて抑えられている。ただ働き方には個人差があり、作業量の分担については課題もある。生徒に対しては傾聴を基本に、丁寧な接し方ができる教員がほとんどである。子育ての経験のある教員が多いことは、「待つ」ことの重要性を大半の教員が身をもって知っていることでもあり、生徒指導に効果的に生かされている。昨年度より、20代の男性教職員が複数名配置されたことで、職員室内にOJTが自然な形で実践されている。

地域との関係は希薄である。不登校になったことで地元の友達や人間関係に入りにくくなっている生徒・保護者も少なからずいることから、本校の「地域」と関わる機会を作ることは、社会とのつながりの回復への一助となると考えている。

◇令和8年度の目標

上記の実態を踏まえて、今年度の学校教育目標も「人と 学びと 社会と つながる学校」とする。目指す生徒像「つながる(CONNECT) みとめる(ACCEPT) しなやかに(BE RESILIENT)」の各キーワードを、日常的に具体的な生徒の姿に置き換えながら実践することを目指す。生徒が集団生活の中で少しずつコミュニケーションのスキルを身につけ、自信をもって新しい挑戦へと向かう姿を目指すためにも、本校に在籍している間に起こるトラブルや失敗も、学びのチャンスとして歓迎する気風を保護者にも伝えられるような機会を作りたい。

また、昨年度から再開した祇園祭の見学活動に、「鯉山保存会でのちまきの帯つけ」「ヒオウギの花の育成と配布」といった本校での「地域」との連携活動を通して、社会への参画意識を高めたい。

さらに、今年度から2年間指定を受けた「健康教育推進校」の取り組みの中を通して、学校保健委員会・学校運営協議会の専門的見地からの助言を生かして、本校生徒の生活改善や健康増進を向上させる新たなプロジェクトを始動する。これまで管理職を中心に参加してきた両会に養護教諭にも同席してもらい、プロジェクトチームで協議の後、学校活動に反映させる仕組みを整備するのが目的である。生徒の心だけでなく体の健康にも目を向けることで、不登校が原因で起こる多様な課題に分析を加えることで、不登校経験者への指導の手札をさらに増やすことを目指す。

◇令和8年度経営方針

これまで同様、生徒や保護者に丁寧な寄り添い、思いをくみ取ることに重点をおきつつ、今年度は、「コミュニケーション」と「心と身体」に焦点を当て、学校経営を進めていく。

上述の教育目標実現のため、学校経営方針に基づいた「知・徳・体のバランスの取れた『生きる力』を一体的に育む」ための教育課程上の工夫や具体的な取組及び（取組結果を検証する）各種指標について記載してください。

※生徒指導提要に記載されている「発達支持的生徒指導」の観点から、児童生徒が主体的に課題へ対処しうる「自己指導能力」の獲得を支える視点にも留意してください。

具体的な取組（年度当初）

①多様な大人とのコミュニケーション

これまで取り組んできた、生徒と生徒、生徒とスタッフという人間関係に加えて、「生徒と外部の大人」との関係にも目を向ける。段階をふむ必要はあるが、生徒やスタッフと良い関係が築けていても、卒業後に不調をきたす生徒もこれまで見受けられた。心地よい距離感や接触が保証されている時だけ安心して過ごせる状態ではなく、自分から新たな人間関係を強めていく力も付けられる生徒もいると感じている。今年度地域とのつながりを強化したことで、本校の中で十分良好な人間関係を築けるようになった生徒に対して、次のステップを準備することになる。

今年度新たに外部からの協力をいただく案件は、アート分野と伝統分野に大きくわけられる。アート分野に関しては、京都市立芸大の富田先生のご協力を得て、芸大の学生が本校生徒と交流することで受けたインスピレーションを作品に生かす取組である。生徒にとっては芸術を志した大学生に接するという機会を得ることとなり、学生にとっては不登校経験者という少数派の子供のものの考え方から刺激を受ける、ということになる。

伝統分野に関しては、昨年度復活した祇園祭見学に関連付けて、「鯉山のちまき帯付けのお手伝い」と「ヒオウギの花を配る」活動を実施することである。どちらも高倉小学校区の地域の方のご協力を得て、6～7月に実施の予定。

さらに校庭の花壇を地域の方にお貸して、グリーンカーテンにホップを植える計画も持ち上がっている。お世話は初音学区の方がするが、となりの花壇は本校生徒が世するので、自然な形で一緒に作業する機会も出てくると期待している。



②心と身体に関連に注目

右のスクールビジョンに記したプロジェクトチームを中心に、生徒の成長と、運動量や発育といった健康面との関係に、日常的に目を向ける一年としたい。昨年度、ある生徒がグラウンドで遊ぶようになってから、めきめきと表情や振る舞いが変化したという事例があった。この事例をさらに深く考察し、専門家の知見を参考にしながら、身体を動かすことから心に働きかけるような指導法を、一年間全教職員で考える機会としたい。

登校日数が増える→1人の生徒の思い付きや決意に賛同する生徒が出てくる→小集団で新しいことを始める→スタッフやほかの生徒が興味を示す、というサイクルが昨年度些細なことで頻発した。このサイクルをうまく使えば、自然な形で登校刺激や仲間づくりについて分析が可能なのではないかと考えている。専門家の知見も取り入れつつ、生徒の成長を記録していきたい。

(取組結果を検証する)各種指標

①多様な大人とのコミュニケーション

- ・学校評価アンケート（生徒・保護者）に地域・文化にかかわる数値が上がる。
- ・学校運営協議会での協議に多様性に関する話題が出る。

②心と身体に関連に注目

- ・学校評価アンケート（生徒・保護者）の内容。
- ・生徒の健康観察の中に自分の健康や生活に意識が向けられた内容の記述が増える。
- ・学校運営協議会での協議の中に生徒の健康について話題が出る。
- ・学校保健委員会での協議の中で生徒の様子と健康について話題が出る。
- ・プロジェクトチームでの協議・報告を踏まえて、学校の取り組みの改善案が複数出される。

5 個別の取組について

(1) 働き方改革の推進について

「学校・幼稚園における働き方改革推進方針」(※)を踏まえ、時間外在校等時間の数値目標や教職員のウェルビーイングの向上に関する指標に基づいた目標や取組を記述してください。

※参照(プロジェクトフォルダ):市教委+全教職員>5010032教職員人事課>09 働き改革推進方針

重点目標
働き方改革に即した職場環境の整備
具体的な取組(年度当初) 今年度新規採用者の配属に伴い、新採指導員の先生も合わせるとスタッフルームの人数が2名増えることとなった。これまで職員室の机とロッカーはギリギリのところまでやりくりしてきたが、一気に2名増えることを機に、教諭、常勤講師以外の先生方の机をフリーアドレス化することとなった。予算の都合もあり、4月はまず一部の机を廃棄してテーブルを入れるだけになるが、まずは物を減らしていくことで、スタッフルームの中で教科・wing・学年と異なるグループが自在に集まることのできるスペースを広げる。今後相談をしながら、タブレット端末を用いた効率的でペーパーレスな働き方へのシフトチェンジを段階的に進めていくことで、スタッフルーム内の風通しをよくすることも目的としている。
(取組結果を検証する)各種指標 ・ストレスチェック ・運営委員会での協議の中に職員室のレイアウトの話題が出る。

(2) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標(各校独自)
生徒。保護者の思いに寄り添う丁寧な指導により、いじめの萌芽を見逃さない
具体的な取組 「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
(取組結果を検証する)各種指標
①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
②学校がいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。
③学校評価アンケートの内容
④児童生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。
⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。